

6. 計画策定委員会提言書

竜王町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会からの提言

昨年度より、6回にわたり地域福祉計画および地域福祉活動計画の両計画の策定にかかる審議を進めてきました。

審議してきたこの2年間は、全国的にも少子高齢化、人口減少の局面に突入し、大きな転換期でもあります。

これまでの社会福祉は、家族同士が支え合い、地域の担い手が多数いるような社会構造を前提にしたものですが、これからは、世帯の単身化、担い手の縮小を想定した社会福祉に移行する時期を迎えています。

竜王町は、他市町に比べて家族の支えや地域のつながりなどの余力を残しているなか、来る変化を見据えて予防的に対応することが求められます。そのためには、新たな協力者とうどうつながるのか、今ある地域の強みをどのように活かすのかを考えてきました。

一つ目の新たな協力者とのつながりについて、この計画では、竜王町と既に接点のある人たちに着目しています。その例として、昼間人口の多さを活かした企業への見守りの協力や、町外に住んでいる親族、いわゆる近居者と地域住民との連携などをコーディネートしていくことを推進していきます。

二つ目の地域の強みの活用として、まず、1万人強の人口規模、土地の豊かさ、住民と行政の距離が近いこと、困っている人をこぼれさせない網を持っていることが強みとして挙げられます。

今ある強みを活かしたうえで、その網をもっと緊密かつ強靱なものにしていく取組や進行管理などがこの計画の中で組み立てられています。

今回は、町民と行政との協働を重点に置き、住民の主体な取組を推進する地域福祉活動計画と目線を合わせるという意味で一体的に定めています。その中で、行政と社会福祉協議会の責任を明確にしたうえで、役割分担が図れています。

なお、公助の責務の例として、竜王町は相談業務の多くを直営で対応しており、一人一人に丁寧に関わる体制を継続していただきたい。また、職員の直接的なかかわりにより住民に安心を届けられるまちとして、相談支援を行う職員の人材育成にさらに力を入れていただくことを望みます。

また、共助の推進として、近隣住民の気のかけあい、民生委員児童委員活動、福祉委員の活動などを組み合わせた一体的な見守りあい、NPOなどの市民活動、企業との連携などの新たな主体とのつながりづくりが挙げられます。住民や民間の力をつむいでいくことは社会福祉協議会が負うところが大きいものがあり、社協職員の積極的なアプローチを期待しています。

最後に、少子高齢化・人口減少社会に多くの人が向き合って、支えあう過程を通して、まちへの愛着や人口の定着にもつながるものと考えています。住民、社会福祉協議会、企業、各種団体、そして行政が協働し、この計画のスローガンであります“みんなの「あい」でつくる共生のまち 竜王”の実現を願っています。

令和5年（2023年）2月27日

竜王町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会
委員長 藤井 博志